



令和6年度 飯豊町立第一小学校 学校経営方針

1 めざす姿

- (1) 校 是 「美しい心 丈夫な体」
- (2) 学校教育目標 「自分の可能性に向かって挑戦しつづける力と
豊かでたくましい心を持つ第一小の子ども」
- (3) 子ども像 「確かな学力」が身についた子ども (粘り強く考える子ども)
「行動力」のある子ども (自分から行動する子ども)
「健やかな心と体」が身についた子ども (めあてに向かってやりきる子ども)
「郷土愛」がある子ども (飯豊が好きな子ども)
- (4) 学校像 「い・の・ちの学校」～ い:いきいき の:のびのび ち:ちいきの中の 学校 ～
◇いきいき学校 (子供も大人もキラキラ輝く) = 子供が安心して通う
・生徒指導の実践上の4つの視点を生かし、一人一人に自尊感情を育む
・常に危機意識をもち、リスク・クライシスマネジメントを通して安心・安全を確保する
・縦と横の人間関係やつながり、あいさつや返事、対話を大切にする
◇のびのび学校 (子供も大人も力を付ける) = 自信をもって追求し続ける
・わかる・楽しい授業を創造し、だれ一人取り残すことない学びを実現する
・積極的にコンクールや校外大会へ挑戦しようとする意欲とたくましさを育てる
・子供一人一人の自己決定と、子供たちの集団決定を大切にする
◇ちいきの学校 (子供と大人でよりよい社会を創る) = 地域と共に歩む
・教育課程を社会に開き、保護者・地域との連携・協働による教育を推進する
・カリキュラム・マネジメント、PDCAを機能させよりよい教育を創る
・ふるさとの「財」を活用しながら郷土愛を育み、「地域を創る人」の育成を図る
- < 合言葉 : CHANGE CHALLENGE そして CHANGE ! >**
- (5) 教師像 「第一小プライドをもち、ともに磨き合う教職員」
・使命感と情熱を持ち、自らの人間性を高める学び続ける教職員
・子どもファーストを信念とし、向き合い・語り合い・寄り添い続ける教職員
・だれとでも心を通じ合い、切磋琢磨し、育ち合う教職員

2 方針

- (1) 学習指導要領、第6次山形県教育振興計画後期計画、飯豊町における幼小中一貫教育グランドデザインを経営の基底に据える。
- (2) 飯豊町の中核校としての自覚に立ち、校是「美しい心 丈夫な体」の体現に向け、協働的な学びを重視して「生きる力」を育成し、子どもの姿に成果が見える経営実践を充実する。
- (3) 児童の実態(学力の二極化)に即しながら「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力」の育成に向けて、主体的・対話的な深い学びに向けた授業改善を追究する。
- (4) 個に応じた合理的配慮をもとに、自尊感情を高め自信につなぐ教育活動と居心地のよい学校を創る。
- (5) コミュニティ・スクール(CS)として、学校・家庭・地域で“みんなで一つ子を育てる”安心・安全で信頼される学校にする。
- (6) SDGs 未来都市の理念に鑑み、子どもの育ちとふるさとの将来を念頭に置き、「未来社会を見据えた持続可能な取組(SDGs)」という視点に立った教育活動を推進していく。

3 重点

(1) 重点1「確かな学力を身につける」【知】〔学習指導部〕

- ① UDを重視し、立腰、鉛筆の持ち方指導を通し、前向きな学習の構えをつくる。
- ② 「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」の向上をめざし、ICTを効果的に活用し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る指導体制・指導方法を工夫する。
- ③ 学習の定着と自立を図るため、授業と家庭学習をつなぎ、自己調勢力を育成していく。
- ④ 「読書が大好きな一っ子」をめざし、PTA、地域と一体となって読書活動をすすめる。

(2) 重点2「行動力を育てる」【徳】〔生徒指導部〕

- ① 合言葉を意識したあいさつや会釈を、子ども主体で日常化させる。
- ② 自主性を育む、気づき、考え、行動する特別活動や諸活動を工夫する。
- ③ よりより人間関係の構築のため、非認知能力を育成する。
- ④ 自己の感情を表現し、心の安定につなぐ教育相談と適応指導をすすめる。

(3) 重点3「健やかな心と体を育てる」【体】〔保体安全指導部〕

- ① 体を動かす楽しさを知り、めあてに向かって最善を尽くし、体力・運動能力（特に走）の向上と改善を図る体育を経営する。
- ② 自他を大切に、豊かな心とたくましい体を育む、いのちの教育とメディアコントロールをすすめる。
- ③ 自ら健康づくりに取り組む実践力を育む健康教育を行う。
- ④ 家庭や地域と連携を強化して、自らのちを守る安全教育をすすめる。

(4) 重点4「郷土愛を育てる」〔教務部〕

- ① 身近なSDGsについて関心を持ち、学年段階に応じたSDGs学習をすすめる。
- ② 育ちを豊かにする「他とつながる」カリキュラムマネジメントを工夫する。
- ③ CSを機能させ、教科・総合的な学習・特別活動での地域人材や教育資源の発掘と活用を図る。
- ④ 地域の一員として、地域行事や地域主催の諸活動への積極的な参加を促す。

4 経営上の留意点 ～美しい心と丈夫な体で、美しい心と丈夫な体を育む～

- (1) 教育公務員としての使命、教職員が最大の教育環境であることを自覚し、自己研鑽と切磋琢磨を心しOJTを機能させて資質・能力の向上に努める。 ＊信用失墜行為の絶無
- (2) 経営の方針及び重点を受け、指導部毎に活動を重点化・焦点化し、組織として子ども一人一人を確かに育て、子ども・家庭・地域から信頼される学校を創る。
- (3) 小中連携や幼小中連携等（めざみ学習、集合学習（6年）、出前学習（6年）、授業交流、共通実践、行事参加、等）、幼・小・中の連続性を意識した教育課程の編成を行い、幼小中一貫教育の連携を強化する。
- (4) コミュニティ・スクールとして、校是「美しい心 丈夫な体」の体現（非認知能力の育成）や課題解決に向け熟議を行い、学校・家庭・地域が連携協働して「地域と共にある学校づくり」をすすめる。なお、中核的な取り組みを「みんなの願い2024」として、『美しい心 丈夫な体』を意識付け、体現に向けてカリキュラムマネジメントを工夫する。
- (5) 危機管理のさしすせそ”をキーワードに、報告・連絡・相談・確認を徹底し、職員自身の危機管理意識を高め、安心と安全を守る。
- (6) 今日の課題への対応
 - ① 専門性を生かし、学力向上と安定につなぐ教科担任制（算数・英語）や交換授業、乗り入れ授業をすすめる。
 - ② 学力向上及び学習に係る課題解決に向け、学校研究と家庭学習を両輪に、実践的な研究を積み上げる。
 - ③ 「誰一人取り残さない」、「個別最適」、「協働的」な学びに向け、学習を核に校内外教育に関わる効果的なICT活用の研修や実践を継続する。
 - ④ 「いじめ防止対策基本方針」をもとに、児童・職員・保護者・地域が一体となって未然防止と早期発見に努め、いじめ撲滅に全力をあげる。

- ⑤ 誉めて伸ばす指導を基本に、生徒指導の実践上の4つの視点やQUを生かした授業づくりや経営を行うと共に、児童と意図的にかかわり「困り感」を把握し、教育相談や家庭、専門機関との連携を図りながら不登校の未然防止に努める。
- ⑥ 特別支援教育委員会を定期開催し、育ちを共有して全職員で子どもを育てる。また、保護者と密接に連携し、個々のニーズに応じた合理的配慮をもとに細やかな指導をすすめる。
- (7) 学校評価を活用し、PDCAのサイクルを機能させ、組織的・日常的に経営改善を行う。
- (8) 働き方改革を推進し、校務の重点化や焦点化、日課表の見直しを行い、子どもと関わる時間、教職員が心にゆとりを感じられる時間を創出する業務改善で、働きがいのある明るい環境を創る。

<校是の具現化に向けた中核的な取組 ～学校・家庭・地域が連携協働して推進～>

みんなの願い、 2024				
美しい心			丈夫な体	
郷土愛	豊かな心、学力基盤	自主性、思いやり	体力・運動能力	健康・安全
SDGs学習 (教科・総合・行事等)	家族読書 読書指導	児童会活動 縦割り活動	教科体育指導 体力アップT	メディアコントロール ゆりの里安全ネット活動
地域関連学習	読み聞かせ	一っ子守り隊(あいさつ)	バランスボール運動	感染症対策
学校・家庭・地域 学びに向かう力 <	授業の充実	立腰・鉛筆の持ち方指導	自主的な家庭学習の習慣	> 学校・家庭

＝令和6年度の主な取組＝

- 飯豊町幼小中一貫教育推進2年目
<めざまし学習・出前授業・集合学習・立腰・鉛筆の持ち方>
 - ・中学校卒業時になりたい姿に向かい、幼児施設並びに義務教育12年間を通して、そのステージごとにめざまし子ども像を共有し、確実につけたい力をつけていく。
- ポストコロナ並びに熱中症対策における効果的・効率的な教育活動の推進（働き方改革推進含む）
 - ・子どもファーストを信念に、学校行事や諸教育活動の内容の精選と時期の見直しを図る。
- 「自ら学ぶ子供の育成」のための家庭学習の取組
 - ・「学習の個性化」を図るために、自己決定・自己選択を尊重した学び方を推進する。
- 子どもに寄り添う時間確保のための授業時数、日課表の吟味
 - ・月毎、授業時数に軽重をつけたり、対話や個別指導の時間を創出したりしていく。
- 閉校に向けた会議等の本格的準備2年目
 - ・令和7年度に閉校記念事業を開催するための実行委員会を開催し検討を重ねていく。
- 開かれた教育課程実現に向けた保護者、地域住民との協働活動の推進
 - ・諸教育活動を公開し、学校教育目標達成のための取組を参観したり、ともに活動したりする機会を設定していく。